4-2　金属製品（RM）について

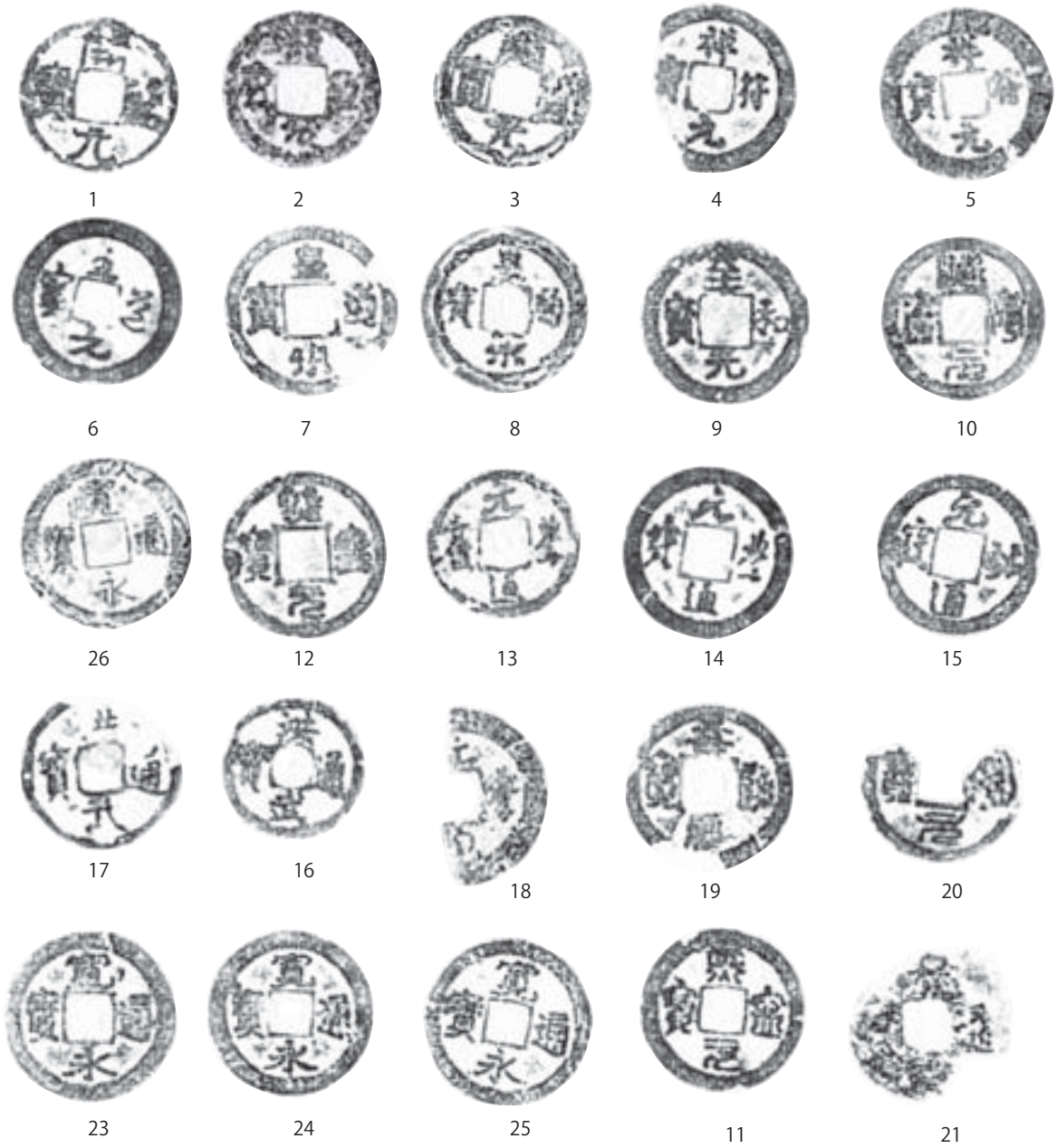

Fig.2　花岡木崎遺跡出土銭貨（RM）拓本

4-2-1　金属製品の概要

花岡木崎遺跡からは、銭貨、鉄器、青銅器が出土している。

銭貨は中世以降の銅貨であり、鉄器は鉄鏃、刀子、鉄片等、青銅器は笄他の装飾品である。

なお、芦北町教育委員会が調査した花岡木崎遺跡出土品には青銅製品に古代の鉤帯 1 点が含まれており、古代における遺跡の性格を示している。

4-2-2　銭貨（RM1 ～ 22）

銭貨は 22 点出土した（Fig.3、Tab.2）。

RM1 は開元通寶である。調査区 4 区 S809 から出土した。

RM2 は開元通寶である。調査区 4 区 P15 グリッドの攪乱層から出土した。

RM3 は開元通寶である。調査区 4 区 S1120 から出土した。

Tab.5　花岡木崎遺跡出土銭貨（RM）一覧

番号	名称	備考	調査区	遺構	層位
1	開元通寶	大字	4	S809	−
2	開元通寶	大字	4	P15グリッド	攪乱
3	開元通寶	小様	4	S1120	−
4	祥符元寶	−	4	O15グリッド	4層
5	祥符元寶	−	9	SP889	埋1層
6	至道元寶	草書	4	S382	埋1層
7	皇宋通寶	真書	2	B2グリッド	6層
8	皇宋通寶	真書	4	S1120	−
9	至和元寶	真書	4	S719	−
10	熙寧元寶	篆書	4	S440	−
11	熙寧元寶	篆書	9	SP954	埋1層
12	熙寧元寶	篆書	9	SP1076	埋1層
13	元豊通寶	行書	4	S1523	−
14	元豊通寶	行書	9	SP179	埋1層
15	元祐通寶	行書	9	SP1240	埋1層
16	洪武通寶	小様	3	D2グリッド	4層
17	洪武通寶	無背コ頭通	2	C2グリッド	5層
18	□□通寶	−	4	N15グリッド	4層
19	□□通寶	篆書	9	SP202	埋1層
20	□□元寶	篆書	2	S127	埋1層
23	寛永通寶	−	3	F2グリッド	4層
24	寛永通寶	−	4	S901	−
25	寛永通寶	−	4	S1103	−
26	寛永通寶	−	3	−	表土
21	不明	−	9	SE2	掘方
22	不明	−	5	−	6層

RM4 は祥符元寶である。調査区 4 区 O15 グリッドの 4 層から出土した。

RM5 は祥符元寶である。調査区 9 区 SP889 埋 1 層から出土した。

RM6 は至道元寶である。調査区 4 区 S382 埋 1 層から出土した。

RM7 は皇宋通寶である。調査区 2 区 B2 グリッドの 6 層から出土した。

RM8 は皇宋通寶である。調査区 4 区 S1120 から出土した。

RM9 は至和元寶である。調査区 4 区 S719 から出土した。

RM10 は熙寧元寶である。調査区 4 区 S440 から出土した。

RM11 は熙寧元寶である。調査区 9 区 SP954 埋 1 層から出土した。

RM12 は熙寧元寶である。調査区 9 区 SP1076 埋 1 層から出土した。

RM13 は元豊通寶である。調査区 4 区 S1523 から出土した。

RM14 は元豊通寶である。調査区 9 区 SP179 埋 1 層から出土した。

RM15 は元祐通寶である。調査区 9 区 SP1240 埋 1 層から出土した。

RM16 は洪武通寶である。調査区 3 区 D2 グリッドの 4 層から出土した。

RM17 は洪武通寶である。調査区 2 区 C2 グリッドの 5 層から出土した。

RM18 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□通寶」である。調査区 4 区 N15 グリッドの 4 層から出土した。

RM19 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□通寶」である。調査区 9 区 SP202 埋 1 層から出土した。

RM20 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□元寶」である。調査区 2 区 S127 埋 1 層から出土した。

RM23 は寛永通寶である。調査区 3 区 F2 グリッドの 4 層から出土した。

RM24 は寛永通寶である。調査区 4 区 S901 から出土した。

RM25 は寛永通寶である。調査区 4 区 S1103 から出土した。

RM26 は寛永通寶である。調査区 3 区の表土から出土した。

RM21 は銭貨名不明である。調査区 9 区 SE2 掘方埋土から出土した。

RM22 は銭貨名不明である。調査区 5 区の 6 層から出土した。

4-2-3　鉄器（RM23 ～ 37）

鉄器は、有茎鉄鏃 14 点（RM23 ～ 36）、不明鉄器 1 点（RM37）を図示した（Tab.3、Fig.4）。

RM23 は有茎鉄鏃の変形雁股式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 4.0cm、幅 1.5cm、厚さ 1.5cm を測り、重さ 6.3g を量る。

RM24 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D6 グリッドから出土した。長さ 6.2cm、幅 1.3cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 7.3g を量る。

RM25 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 5.3cm、幅 1.0cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 8.6g を量る。

RM26 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 9.6cm、幅 3.2cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 17.7g を量る。

RM27 は有茎鉄鏃の変形広根定角式である。調査区 1 区 17 トレンチ - から出土した。長さ 7.8cm、幅 2.3cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 7.8g を量る。

RM28 は有茎鉄鏃の変形広根定角式である。調査区 1 区 C7 グリッドの 3 層から出土した。長さ 5.4cm、幅 3.6cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 12.6g を量る。

RM29 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドに位置する S059 から出土した。長さ 11.3cm、幅 0.8cm、厚さ 0.7cm を測り、重さ 12.4g を量る。

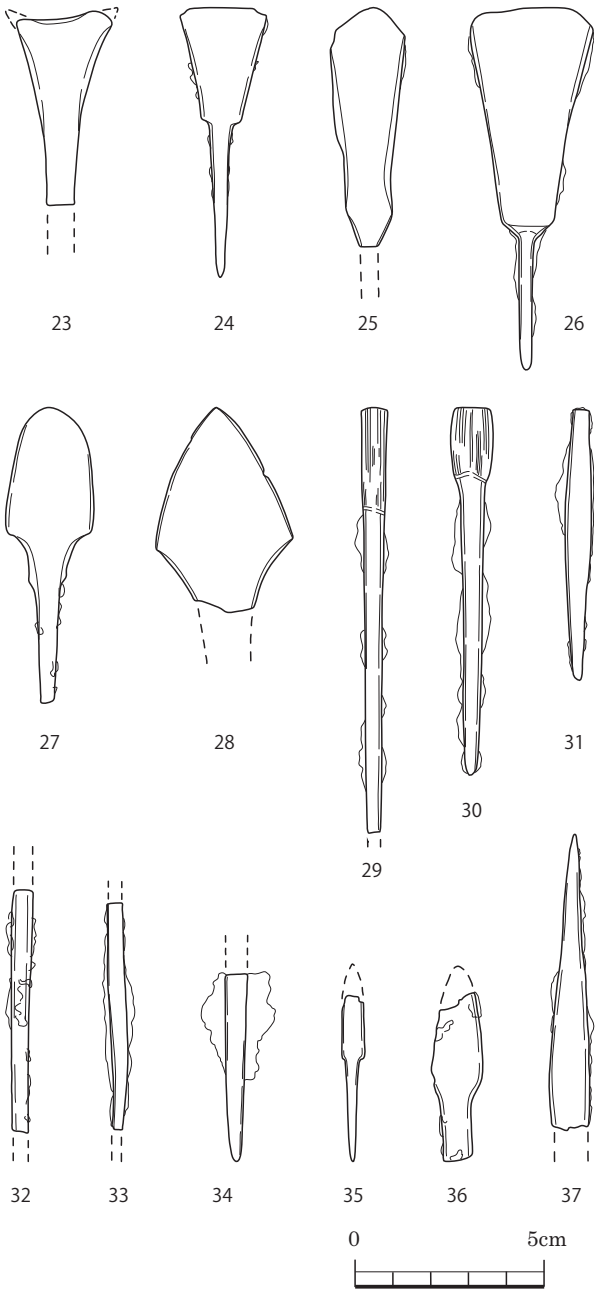

Fig.3　花岡木崎遺跡出土鉄器（RM）実測図

Tab.6　花岡木崎遺跡出土金属器（RM）一覧

番号	形式	型式	調査区	遺構	層位
23	有茎鉄鏃	変形雁股式	1	D7	−
24	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D6	−
25	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D7	−
26	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D7	−
27	有茎鉄鏃	変形広根定角式	1	17トレンチ	−
28	有茎鉄鏃	変形広根定角式	1	C7	3a層
29	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	S059
30	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	S059
31	有茎鉄鏃	（茎）	2	B4	−
32	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	6層
33	有茎鉄鏃	（茎）	1	C5	3b層
34	有茎鉄鏃	（茎）	4	M15	8層
35	有茎鉄鏃	類柳葉三角形式	1	D6	−
36	有茎鉄鏃	平造柳葉式	1	C5	4層
37	不明		−	−	S041
38	青銅笄		2	B2	S070
39	青銅飾具		4	−	4層

RM30 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドに位置する S059 から出土した。長さ 9.8cm、幅 0.9cm、厚さ 0.8cm を測り、重さ 11.7g を量る。

RM31 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B4 グリッドから出土した。長さ 7.2cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5cm を測り、重さ 6.7g を量る。

RM32 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドの 6 層から出土した。長さ 6.4cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5 を測り、重さ 4.3g を量る。

RM33 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 1 区 C5 グリッドの 3 層から出土した。長さ 6.0cm、幅 0.4cm、厚さ 0.4 を測り、重さ 5.8g を量る。

RM34 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 4 区 M15 グリッドの 8 層から出土した。長さ 4.9cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5cm を測り、重さ 7.7g を量る。

RM35 は有茎鉄鏃の類柳葉三角形式である。調査区 1 区 D6 グリッドから出土した。長さ 4.3cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 0.9g を量る。

RM36 は有茎鉄鏃の平造柳葉式である。調査区 1 区 C5 グリッドの 4 層から出土した。長さ 4.4cm、幅 1.2cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 4.8g を量る。

RM37 は不明の鉄器である。三角錐の形態を呈し先端は尖っている。調査区 1 ～ 4 区のいずれかに属する遺構番号 S041 から出土した。長さ 7.9cm、幅 0.9cm、

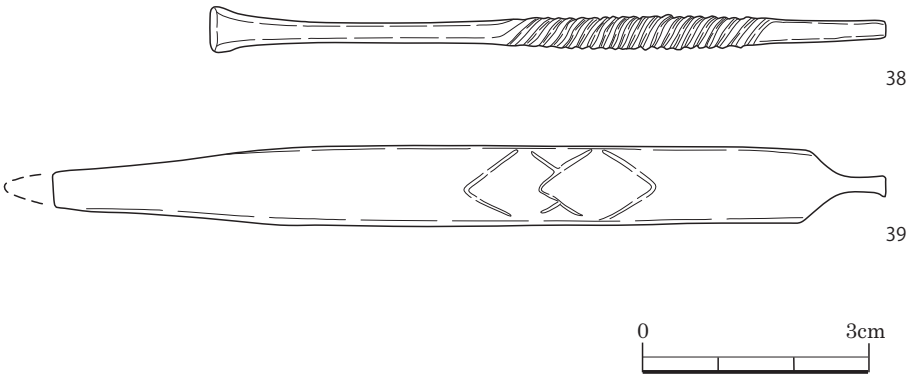

Fig.4　花岡木崎遺跡出土青銅製装飾品（RM）実測図

厚さ 0.9cm を測り、重さ 10.4g を量る。

この他、鉄器では刀子 5、鏃 3、錐 3、刀装具 2、槍鉋 1、鉄片 4 を写真図版に示した。

4-2-4　青銅器（RM38、39）

青銅器は、笄 1 点（RM38）、装飾品 1 点（RM39）が出土している。

RM38 は笄である。長さ 8.9cm、幅 0.5cm、箆状尖端部の厚さ 0.2cm を測り、重さ 6.6g を量る。軸部は断面正方形を呈し、一端は圧延され箆状に、もう一端は太さを減じながら欠失している。軸部中央は長さ 4.0㎝にわたる捩り細工が施されている。

RM39 は笄の可能性が高く、装飾品とすることができる青銅製品である。長さ 10.0cm、幅 1.1cm、厚さ 0.15㎝を測り、重さ 11.3g を量る。身の部分はレンズ状断面を呈し、表面には短冊形の表飾区画がありその中央に二連の菱が配されている。各菱は細刻線によって四菱となっているようにも観察されるが、錆化の影響により断言できない。尖端は丸みをおびた嘴状に収まり、他の一端は小軸が突きだしている。裏面には装飾はない。